

浜遺跡出土品 ～常設展示で見られなくなる資料①～

今年度から3ヵ年計画で
第一展示室を各コーナー毎に展示替え
をしていきます。

今年度は古墳時代コーナーと国分寺コーナーの
変更を予定していますが、この展示替えに伴い
今年限りで見られなくなる資料がでてきます。

そこで13年間の感謝の気持ちをこめて、
改めて資料の紹介をしていき
たいと思います。

浜遺跡は、大野川・丹生川河口付近を結ぶ大在から板ノ市にかけての砂丘上に営まれた弥生時代前期末から古墳時代初頭まで続いた墓地・祭祀遺跡で、お墓には壺などの土器を合わせ口にした壺棺墓や地元で取れる緑泥片岩を棺材として用いた箱式石棺墓などがあります。箱式石棺墓は、壺棺墓などにやや遅れて古墳時代初めに入って出現したものと考えられ、棺内には鉄剣・鉄鏃や勾玉・管玉などの玉類が副葬されていました。展示では、実際に発掘された3号箱式石棺墓を復元しています。(写真下)

3号石棺は、棺の周囲を人頭大の礫が直径2m前後で楕円形にとりかこんでおり、そこから約30cmの深さのところまで石棺が見つかっています。棺は側壁や小口に各1枚の板石を立てて造り、3枚の板石で蓋がされていました。棺内の大きさは、長さ1.1m・幅35cm・深さ35cmを測る比較的小さいものになります。

こうしたお墓の周辺では土器がまとまって確認されます。これら土器は壊されていたり、一部に穿がけられたりしており、葬儀の時などに使用された供献土器だと考えられています。写真上は3号石棺やその周辺に供献されていた古墳時代初めの土師器



古墳時代初めの土師器



3号箱式石棺

類で、茶臼山タイプの二重口縁壺・小型丸底壺・小型器台・埴型器合など、出土地点は若干異なりますが、祭祀用のセットになるものです。またこの時期になると、全国的に土器の斉一性が認められるようになり、畿内で成立した祭祀形態が各地で受け入れられたと考えられています。

P.S. 浜遺跡出土品のみなさん、長い間お世話になりました。展示替えの後はゆっくりと休養して下さい。

● 編集後記

昨年度の末、資料館にとって重大な発表がありました。資料館と共に開館して14年目を迎えるかとしていた2名の職員の内1名が美術館に人事異動になったのです。最近では「源氏絵」などの研究もされていたので、そちらの世界から引きよせられてしまったのでしょうか。どこの党ではありませんが、資料館も今大きな変革期を向えているようです。職員一丸となってこれからの館のあり方を考えていかなければと思います。(T.N)

資料館ニュース No.55

発行 2001.6.30

大分市歴史資料館

大分市大字国分960番地の1
〒870-0864 ☎(097)549-0880



後期の縄文土器 (横尾遺跡群出土)

発掘調査報告会～横尾遺跡群第82次調査地点～

開催日 5月13日(日)

市教育委員会は、4月28日(土)に横尾遺跡群「第82次調査地点」と下郡横穴墓群の2遺跡の現地説明会を行いました。これを受けて資料館では、はじめての試みとして5月13日(日)に「発掘調査報告会」というのを行いました。これは現地説明会当日に現場に行けなかった人などのために、もう1度発掘担当者がスライドや出土した遺物を通して、遺跡の話をするというもので、第1回目として市内でも稀にみる縄文土器の多量に出土した横尾遺跡群の報告会を行いました。当日は考古学ファンをはじめ多数の方が、熱心に担当者の生の調査の様子に耳を傾け、実際に出土した土器や石器を手にとり、縄文時代のくらしに思いを馳せていました。

また資料館では、これまで市内の発掘調査の成



報告会風景

果を特別展やテーマ展で何度か紹介してきましたが、遺跡が調査されてすぐに展示するといったことはなかなかできませんでした。しかし、現地説明会の行われる遺跡は比較的に遺物の整理も進んでおり、また現地説明会の時だけではよく見ることができなかったという声などもあり、こうした遺跡については広く公開しようと「発掘速報展」(会期4月29日～7月1日)を行うことにしました。今回は発掘報告会に合わせて、横尾遺跡群の出土品を現地説明会の翌日から常設展示の縄文コーナーで展示しました。見学に来られた方は、一様に土器の様々な文様に興味を示されていました。

資料館ではこれからも来館者の方のニーズに応えられるような企画・展示を行っていきたくと思っています。



発掘速報展 展示風景

● 表紙紹介

横尾遺跡群出土の縄文土器

横尾遺跡群第82次調査地点は、大野川の支流・乙津川の左岸の丘陵斜面に立地し、すぐ東側には有名な「横尾貝塚」が隣接しています。調査地の下層からは大量の縄文時代後期初め頃(今から約4000年前)の土器や石器が出土しました。土器は口縁部に太い沈線で文様を描き、口唇部に刻目を加える西和田式

土器・沈線で文様を描き文様の間の縄文を施す磨消縄文と呼ばれる文様を施した瀬戸内系の中津式土器や緑帯文土器・大きな山形の口縁部をもち沈線で区画された中に刺突文を施すコウゴ-松式土器など、この時期の土器変遷を考える上での極めて良好な資料になります。

新収蔵品展 II

会期 4月28日(土)～6月24日(日)

本テーマ展示では、近年収集した資料の中から、大友氏に関わる古文書・芸文資料をはじめ、郷土の歴史や人物に題材をとった錦絵、また別府鉄輪の温泉関係史料や、関東大震災後に「ノンキナトウサン」を描いて一世を風靡した宇佐出身の漫画家麻生豊の原画など、大分の歴史を理解する上で、貴重で興味深い内容のものを特に選んで展示しました。以下、その内容を簡単に紹介してみましよう。

今回の展示品の中で注目すべき資料が、大友義統(1558～1605)の手による「十二月言葉手鑑」です。手鑑といえば、一般に筆跡鑑賞を目的に経巻・歌書・消息などの古筆の一部を切り取って台紙に貼り編集したものとされますが、本資料は、それとは趣が異なり、『源氏物語』の一節が華麗な料紙の上に抜き書きされています。奥書には「よし統(花押)」の署名があり、それと全体の筆跡が同じであることから、大友義統自身が書きしるしたものと考えられます。

大友氏に関わる古文書は比較的多く伝えられている中で、こうした義統の、ひいては大友氏の学術・文化を示す資料はほとんど知られておらず、その意味でも貴重なものといえます。

錦絵では、平安時代の豊後国を代表する武士、緒方惟栄の先祖にまつわる伝説を題材に歌川国芳(1797～1861)が描いた作品や、その国分門下の俊英といわれた芳幾(1833～1904)の描いた大友義統の図、

また同じく国分門下で幕末・明治を代表する絵師の一人、芳虎(生没年不詳)が描いた大友氏時の図を展示。そのほか、豊後鶴崎や三國峠での戦いを題材に描かれた西南戦争の錦絵も展示しました。いずれも郷土大分にまつわる内容で、今日では数少ない錦絵の作品と考えられます。

別府鉄輪の温泉関係史料では、主に江戸時代の同地での温泉利用について書かれた史料を紹介しました。元文2年(1737)の願書によれば、当時、豊後の特産品で知られた七嶋蘭の苗の育成を温泉で行っていたことや、文久2年(1862)の記録には同地に温泉宿が16カ所あったこと、また同4年の史料には筑前(福岡県)をはじめとし、遠くは長門(山口県)からも湯治者があったことなどが記されています。大分の温泉の歴史がうかがえる興味深い史料です。

麻生豊の漫画原画では、彼のヒット作となった「ノンキナトウサン」の四コマ漫画を展示しました。また、「ノンキナトウサン」・「只野凡児」・「息子の時代」の漫画本や、彼が描いた河童の絵もあわせて紹介しました。

そのほか、種具文書(高田庄種具名の名主に關わる古文書 当館寄託品)や豊後府内大給松平家に仕えた寺田家の古文書、また、豊後高田(豊後高田市)生まれの本阜学者、賀来飛霞の描いた植木図(テクセツニンジン図)などの資料を展示しました。



大友義統の図



府内瀧主家紋入り袴子(かたびら) 寺田家資料



「ノンキナトウサン」漫画原画

十二月言葉手鑑

1月から12月までの各月にちなんだ『源氏物語』の一筋を、金泥の施された「打曇紙」（雲形の模様のある紙）と呼ばれる良質な料紙30枚に浄書とし、それらを厚手の台紙に張り合わせて「折帖装」に編集したもので、納箱に「十二月言葉手鑑」の表題が付せられています。奥書に「子 九月廿九日 よし統（花押）」の署名があり、その花押の形状から、天正16年（1588）9月29日に大友氏22代、義統（吉統）が書き記したものと判断されます。鎌倉・室町時代の歌人・連歌師たちが『源氏物語』を必項の教養とし、和歌やその前後の文章を抜き出して物語の描く王朝の生活や言葉を学んだとされる内容によく似ていることや、筆者の義統が和歌に造詣が深かったことなどから、本「手鑑」は、そうした彼の和歌や文学、書などの素養が表された希少な資料とみられます。名前の頭文字の一つを平仮名で表す署名のあり方は、手紙であれば、男性から女性に宛てる事例とされ、これが記された天正16年9月、義統は京都にあって豊田秀吉の媒酌で大和国宇田城主伊藤甲斐守の娘（大友松野家の祖、正照の母）を娶っており、また一般に手鑑が婚礼調度品としても愛用されたことなどから、その際の結納品の一つであったともみられます。

二月



五月



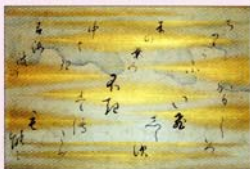
八月



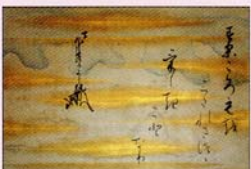
六月



十月



十二月



正月



四月



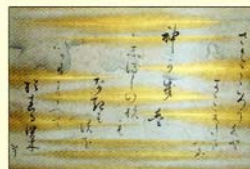
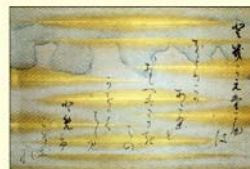
七月



三月



九月



十一月



親子歴史体験講座

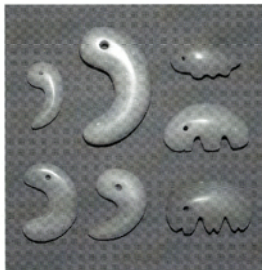
4月28日(土)「火起こし」・5月5日(土)「勾玉づくり」

体験学習は昨年度、「すこやか体験」などの受け皿として、学校を対象に試験的に行いましたが、自由に親子で参加したいという声が多く寄せられたため、本年度から一般の人を対象に「火起こし」と「勾玉作り」の各体験講座を開催することにしました。第1回目の「火起こし」体験では参加者105名、第2回目の「勾玉作り」体験では参加者116名と大盛況の内に終えることができました。

資料館では「弓ぎり式」といわれる火起こしの方法を行っています。押さえ役、引き役、火吹役といった各役割がありますが、簡単そうに見えてどの役目もなかなか容易にはいきません。押さえ板がはずれる、ひもが空回りする等です。大まかにいって、各々がそれぞれの役割を果たし、連携しながらエネルギーを如何に火きり板に集中させ、そこから火の元となる火種をとるかといった内容です。当日は、お父さんが押さえ板をぐっと押さえ、両脇から子供達が一生懸命弓を引きます。綿に移すため、お父さんが慎重に息を吹きかけ、最後に子供達が木の削り屑をのせ火吹き竹で息を吹きかけると炎が一気にあがります。親子で頑張って、親子で嬉しくなるこのような光景があちらこちらで見られました。

勾玉作りは一転して個人の作業が中心となってじっくりと根気が必要になる体験です。滑石という原石を削り徐々に形を整えて、最後に水をつけた紙やすりで磨くとみるみるうちに艶々としてきます。光沢のある外見は非常にきれいで見栄えがします。

ところで「どこまで子供達が体験することができるか？」が気になると思います。体験ではいろいろな役割があり、小学生以上で有れば十分可能ですが、火起こし



いろいろな勾玉

し棒を押さえたり、勾玉の原石を荒く削るといったより強い力が必要なときは、子供たちではなかなかうまくいかないこともあります。ちょっとしたコツでよくなる場合もありますが、難しい場合は大人が手助けをします。勿論、職員も行いますが、親子体験の場合は子供達を導く役柄で、親御さん方の存在感がぜんぜん増します。親子で同じ目線で自然に言葉を掛け合って、一生懸命の一つになって作業を進めてゆく心温まる光景が見られました。

どちらの体験も気軽に参加できるもので、ものづくりの過程などを通して古代の営みを学び、同時に家族のコミュニケーションを図る絶好の機会だと思います。

資料館では、毎月第4土曜日(11月・1月は第1土曜日)にこのような体験講座を行うようにしています。親子と言いつつも一般の方1人でも参加できますので、みなさん奮って参加してください。



みんなで協力して火起こし体験



親子で仲良く勾玉作り

平成12年度 小・中学校の利用状況について

平成12年度、1年間の小・中学校の資料館利用状況がまとまりました。1年間をトータルしてみると市内外を合わせて幼・小学校が83校・児童数7,816名、中学校が10校・生徒数856名、合わせて93校・延べ児童・生徒数8,672名の来館がありました。11年度実績は、幼・小・中学校合わせて46校、延べ児童・生徒数6,157名でしたので、12年度実績は、前年と比べて学校数にして約2倍、児童・生徒数にして約2,500名の増加となりました。

昨年、資料館利用増のきっかけは、例年、実施している資料館PR活動の学校訪問を春と秋の2回に増やし、より学校現場の声を聞くとともに各小・中学校へ依頼した資料館活用のアンケートでした。先生方のアンケートの要望として、

『小学校からの要望』

- 見学するだけでなく、一度見れば終わってしまうが、子供たちが体験できる場ができれば、そのつど新しい発見に楽しみができるのでよいと思う。
- その時代・時代の暮らしが体験できるコーナーの設置

『中学校からの要望』

- 総合学習のテーマにからませた体験学習を考えてもらいたい。
- 休日の土日に体験ができるイベント的なものをもっともらいたい。
- 映像ライブラリーの活用と貸し出しをしてほしい。など様々な要望がアンケートで寄せられました。

資料館の今後を考えて、平成12年度から、大分市内の幼・小・中学校に導入された『すこやか体験活動』や平成14年度から本格的に実施される『総合的な学習の時間』への対応と、従来の見学型施設では、こういう新しい教育活動に対応できる資料館活動は、難しいという結論が出されました。

そこで、昨年6月から体験活動を取り入れた資料館の取り組みがスタートしました。発想の転換から、

幼・小・中学校体験活動状況

市内	幼小学校数	児童数	中学校数	生徒数	学校数	生徒数
見学遠足	11	2822	2	422	13	3244
見学	12	1054			12	1054
体験活動	31	2458			31	2458
すこやか	11	1111	2	320	13	1431
総合学習	2	18	4	37	6	55
市内合計	67	7463	8	779	75	8242
市外						
見学遠足	1	32			1	32
見学	2	12	2	77	4	89
体験活動	13	309			13	309
市外合計	16	353	2	77	18	430
総合計	83	7816	10	856	93	8672

資料館の人材・施設・収蔵品を見直し、有効活用した結果、次なる体験活動が生まれました。

- ①幼・小学校低学年～竹とんぼ(史跡公園)・明るさ体験・ビデオ(アニメ)
- ②小学校3年生～昔の生活(農機具・昔の道具クイズ・明るさ)体験
- ③小学校6年・中学生～火起こし体験・明るさ体験・館内見学・史跡公園巡り
- ④すこやか体験～勾玉作り(粘土・滑石)体験

以上、目的・時間・人数に応じて今までの見学にプラスした体験活動との組み合わせができるようになりました。

資料館体験活動をより充実したものにするために、各学校の先生方との事前打ち合わせ、事前学習資料(おもしろ大分の歴史など)の配布や当日の歴史体験のしおりの活用、火起こし認定証の作成ときめの細かい指導ができるようになりました。入館者が減少傾向にある中で、昨年度の小・中学校の来館増加は、これからの資料館利用の方向性を示しているようです。学校・親子・高齢者までを見据えた生涯学習施設としての役割が、問われているようです。